

# シルバー通信

## ブロック活動特集号

第 40 号の 2 (平成 21 年度 - 2 号)

2010 年 1 月 発行

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会  
連絡先 〒540-0012

大阪市中央区谷町 5-4-13

大阪府谷町福祉センター

TEL 072-753-9087 (理事長宅)

U R L <http://sa-renkyo.com>

## 「ブロック交流活動」に期待すること

「理事会に何をしに来るのか?」「SA 連協は、何をしてくれるのか?」「SA 連協は、何もしなくてもよい」等々、過去いろんな場で話されてきました。ある意味では「お任せ民主主義」で、連協に意見を言うだけに終始していたように思います。初めて、地区SAの代表として、理事会に出席した時を思い返しますと、各種の報告やイベント情報などを、受身的に聞いていただけでした。席の隣の代表の方と顔をあわしても、地区の活動内容など、そんなに深く話したことも無く、済んできたと思います。各地区のプレゼンテーションもありましたが、資料をもらうだけで、「ああ、なんだ」「こうなんだ」と、思うぐらいでした。

ところが、昨年、このSA養成講座の存続危機が持ち上がり、「SA連協のあり方」ひいては、各地区SAも同様に考えざるをえなくなり、こういう時こそ、SA仲間全体として力をあわせる必要があると、痛感しました。一体感、連帯感を醸成するには、何が必要か?まず、お互いを知ることから始める。これが、一番と思います。今年度の運営方針の最初に「以和為貴」=「和楽の精神」としました。その手始めに、加盟の 23 地区を、3つのブロックに区分させていただき、淀川以北を北ブロック、淀川以南から大和川までを中ブロック、大和川以南を南ブロックとしました。

川をへだてて文化も違う様に、それぞれにも特色があるでしょう。SA修了という共有できるものから、情報・活動の共有により、ブロック地区の活性化につなげていければ、連協と各地区SAとの密着度、連帯感も育んでいけるはずです。これまでのタテの情報共有に加えて、ヨコの情報共有を図

理事長 和佐 義顕 (いけだ 19 期環境)



ることにより、有機的なSA活動に展開できれば、すばらしい”和の構築”となります。

「出来る」「出来ない」を問うより、「やる」か、「やらない」か、ということです。世の中もそうですが、「チェンジ=変革」です。

具体的な活動として、SA連協には部会活動がありますが、中央で体得したものを地区で展開するという本来の部会活動が薄れつつある中、部会員だけでなく地区の全会員や近隣の地区にまで、広く認識、体得してもらうきっかけに、このブロック交流活動を利用して頂きたいと思います。現在のところ、SAといえば歌体操といわれることから、各ブロック毎での歌体操勉強会からスタートしますが、おもちゃづくりもはじまればと思います。活動テーマは、部会活動に限らず、ブロック内でのお互いの話し合いのなかで、探して展開してください。

初めてのブロック活動として、各ブロックの地区紹介を 10 月 31 日の”アクティブシニアフェア 2009”のパネル展示で行いました。各ブロックとも、趣向をこらした展示で皆さんの参画も見られ、すばらしい出来栄でした。何事もそうですが、出来るところから、出来るものから、出来る方法で、急がないで、やっ払いこうと思います。

この活動により、各地区の会長さん同士の親近感が高まり、地区運営の見直しや各地区での諸問題の解消につながり、活性化の一助となればと思います。いつまでも、いろいろなテーマによる活動の取り組みを続けてほしいものです。

SAの魅力づくりが、このブロック活動を通して行われることを期待します。!!

## 中ブロック交流活動について

中ブロック長 岩井 博 (大阪市 17期福IT)

平成21年度の大阪府SA連協の活動方針が「情報交換・情報収集」だけでなくブロックでの交流活動を積極的に行っていこうという方針を打ち出しました。中ブロックは淀川以南から大和川までの大阪市SA連協、SA守口・門真の会、SA寝屋川連絡会、SAひらかた、SA交野、SA四条畷、SA大東の会、SA東大阪、SA八尾の9地区で構成されています。各地区とも会則、会員数、活動方針、活動の方法が異なり、その地区独特の諸々の事情を有しています。

また、私たちが活動するボランティアの世界は経済情勢の停滞、社会の多様化、ニーズ



の変化、価値観の違い、会員の高齢化などの課題を抱えています。

このような情勢の中で、会を活性化し、世のため、人のために社会貢献を行うには会全体が能動的に活動することが重要です。会として諸々事情がありますが、中ブロックの交流活動は出来るところから、出来るものから、出来る方法で急がずに活動していきたいと思っています。それには地区の会長、役員、会員の皆様方のご理解とご協力、ご支援が必要です。皆様方のお知恵とお力をお借りして活動していきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 南ブロック交流活動について

南ブロック長 大川 正彦 (藤井寺 18期国際)

◇ブロック長就任にあたり

川(河)を渡ると文化が違う。大阪も淀川、大和川の以北、以南で文化気質が随分と違う。

大阪府連協の事業計画の特徴は、エリアが広いそれぞれに文化歴史がある。加えて役員スタッフの任期が短く短期の結果を求められる。従って、戦術、戦略は、ピンポイント、短期プロジェクト型=ブロック活動が求められる。



\*南ブロック8地区(15市6町1村)

◇ブロック活動状況

- ・第1回 (7/2) 2テーマの問題・課題抽出。
  - ①部会活動活性化、②地域の悩みと課題
- ・第2回 (9/3) テーマ 抽出課題の実態調査。  
実態調査後、理事会にて南ブロック8地区の「アクティブシニアフェア」へ取り組みを発表。
  - ①パネル展示、②ステージ出演、
  - ③単独教室出展(堺SA)
- ・第3回 (11/5) 3つのテーマ検討)

- ①南グループ交流研修会(歌体操)体制強化
- ②連協合同20周年記念行事(歌体操)協賛
- ③地域課題:会員の減少対策

・正会員 準会員の会則を如何するか?  
早急に、各地域例会で検討、討議に入る。  
ブロックでは統一会則でなく地区の運用面を付帯事項とする。

・目標::3月の高齢者大学校の修了生の受入れ時まで各地区の方針を決める。

## 北ブロック交流活動について

北ブロック長 小川 忠夫 (吹田 18期世代)

SA養成講座が北ブロックの吹田の地から始まったという事もあって会員数が多く、連携とか共同とかいう意識は少ないし必要も多くは感じていない、北ブロックでは無かるうか。



「歌体操」はSA連協共通で各ブロックで行われた。このブロック活動のきめ手は各SAの会長の出馬である。会長自らが出席する事によって、活動実態を掴み関係者との話し合いが行われ、

ブロック交流として活動可能なものは「歌体操」と「おもちゃ」であろうと思っている。実際に活動を始めてみて強く感じた事は、ブロック活動の必要性と効果であった。

活動部隊からの信頼も得られ、SA内の活動も活性化していく事例を、いくつか見る事ができた。ブロック活動を行うことによって自SAの活動実態が認識できて打つ手も容易となる。ブロック活動は各SA会長の協力と支援がなくては成り立たない事を強く感じている。この活動が軌道に乗ればSA連協の活動の質が大きく変わる可能性があるかと期待している。

「おもちゃ」はアクティブシニアフェアを前にして初めての顔合わせを吹田で行った。各地区SAの活動実態を知る事が出来た。互いに切磋琢磨してレベルアップしていく事が必要と強く感じた。

### SA 連協および関連団体のイベント報告

広報誌部会長 服部 早樹子 (大阪市 19期福IT)

#### アクティブシニアフェア 2009

平成 21 年 10 月 31 日 (土) 午前 10 時から午後 5 時まで大阪府庁新別館で昨年に引き続きアクティブシニアフェアが開催されました。運営の一部を勉強させて頂きましたが、関係者の皆様の大変な努力に心から敬意を表したいと思います。



多くのNPOが出展される中でSA連協は本部、今年からブロック活動に移行した北、中、南各ブロック4ブースと大阪市、堺SAがそれぞれ1ブース、計6ブースと出展して、見事な作品を展示して華やかなブースもあり、皆様の創意工夫を持ってS

Aのボランティア“力”を見て頂きました。又、昨年はまさしくシルバーが対象でしたが、今年は「わんぱく広場」が設けられ、かわいいちびっ子たちが大勢来場し、担当ブースは大変賑わっていました。歌体操も

グループごとに競演し、会場一杯に繰り広げられ、シャッター音が途切れない様でした。会場全体が大変広く、天候にも恵まれて、申し分のない大イベントで来年は又、一段と素晴らしいアクティブシニアフェアをSAが中心となって開催できることを願っています。

## NPO 法人 大阪府高齢者大学校文化祭

平成 21 年 11 月 13 日（金）午前 10 時から午後 5 時まで、泉北高速鉄道泉ヶ丘駅前の国際交流センター「ビッグアイ」にて高齢者大学校の文化祭が開催されました。

此処は 17 期、18 期、19 期が学んだ南部校で、私も 19 期修了生で懐かしく訪れました。府 S A は今年度のブロック活動の成果をアクティブシニアフェア時と同様に盛大に発表し、華を添えました。地元堺 S A の皆さんは折り紙教室を出展され、見事な作品を披露されました。受講生には今後の活動の進路の道標になったと思います。又、会場は大変広く（受講時は中を見る事は無く初めての開扉でした）全受講生の受講成果発表が一同に会



した壮観さは立派の一言でした。S A もそうでしたが皆さん前日から準備され、それ以前の企画立案制作の段階も大変だったろうと推測しています。趣向を凝らされ、新しいスポー

ツを紹介された班、現役もびっくりの手作りおもちゃ、高松塚の衣装で発表された班、と書ききれませんが皆様の文化祭に掛ける意気込みの大きさが伝わって来ました。又、コーヒーやぜんざい等をゆっくり座って味わえる席も設えられていて、言う事はありません。

参加者全員が笑顔で輝いていて明日への活動の意欲で満ちた一日でした。

## S A 連協歌体操介護予防ボランティア養成に 赤い羽根 大阪府共同募金会より助成金

企画委員長 小川 忠夫（吹田 18 期世代）

S A 連協の歌体操活動に対して表題のように、大阪府共同募金会より 18 万 7 千円の共同募金配分金の名目でのボランティア支援の助成金を受ける事が出来ました。これは大阪府 S A 連協のボランティア養成活動を支援するためのものです。

S A 連協としては、この助成金を有効に使い、歌体操ボランティアを養成する活動を行います。中央での交流研修活動や各ブロック別で行う地域主体とした交流研修会等を計画し、ここで習得した歌体操の技術を各地区 S

A の高齢者施設での歌体操ボランティア活動に活かす事を目的にしています。早速、大阪市生涯学習センターでの中央研修会やブロック交流研修会を藤井寺市、大阪市、吹田市、高槻市で計画し実施しています。

大阪府下の歌体操を大きく広げ、歌体操人口の増加を図り、高齢者施設での歌体操ボランティアの人材を養成しようと考えています。

自分の楽しみのために、それが地域の高齢者のためにもなる歌体操ボランティアにぜひご参加ください。

### 【編集後記】

本号では、今年度より始めました地域ブロックについて特集しました。会員の皆さまには、連協自身の経常的活動としてご理解ご協力頂きますよう、お願い申し上げます。

また、限られた予算での限られた紙面のため、一部の取材については記載できないものもありました。取材にご協力いただきました皆さまには、深くお詫び申し上げます。